

コレだけは
知らなきゃヤバイよ!

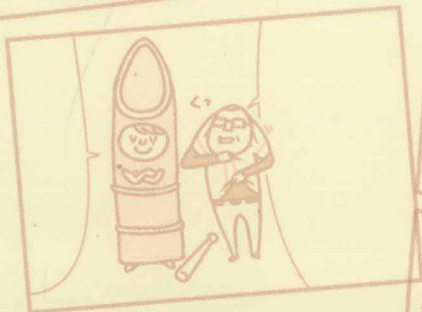
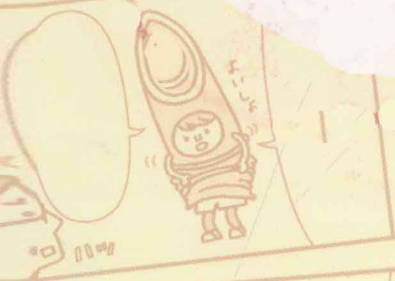
会計

公認会計士・税理士

中尾篤史

公認会計士・税理士

本郷孔洋



中尾篤史 (なかお・あつし) —————【著者紹介】

- 公認会計士・税理士、CS アカウンティング株式会社 専務取締役。監査法人、税理士法人を経て現職。現在、辻・本郷 税理士法人グループにおける、会計・人事のアウトソーシング・コンサルティングに特化したCS アカウンティング株式会社の専務取締役として、上場企業の子会社管理業務や不動産・金融商品の流動化支援業務に従事している。
- 著書に「経理・財務お仕事マニュアル」「4週間でマスターできる経理・財務基本テキスト」「気がついたら決算書が作れるようになる本」(税務経理協会)、「経理・財務スキル検定 [FASS] テキスト&問題集」(日本能率協会マネジメントセンター)、「節約法人税のしくみ」(祥伝社)、「はじめてのキャッシュフロー」(大成出版社)、「在庫管理がわかる」(実業之日本社)、「企業組織再生プランの法務&税務」(清文社)などがある。

本郷孔洋 (ほんごう・よしひろ) —————【監修者紹介】

- 公認会計士・税理士、辻・本郷 税理士法人 代表社員兼理事長。経営者が抱える税務会計、事業承継等の問題解決に、常に迅速に尽力することをモットーとしている。東京大学、東京理科大学で講師を務めるほか、環境省中央環境審議会専門委員としても活躍。
- 「稼げる税理士になる方法」(すばる舎リンケージ)、「わかる! 環境経営」(PHP ビジネス新書)、最新刊「本郷孔洋の経営ノート 2011~今を乗り切るヒント集~」(東峰書房)など著書多数。

CS アカウンティング株式会社
お問い合わせ

<http://www.cs-acctg.com/>
csa-g@cs-acctg.com

装丁 黒瀬 章夫 (Malpu Design)
イラスト こさかいずみ
図版 岡空 俊輔 (悟空)

コレだけは知らなきゃバイよ! 会計

2011年4月23日 第1刷発行

著者——中尾 篤史

発行者——徳留 慶太郎

発行所——株式会社すばる舎



東京都豊島区東池袋 3-9-7 東池袋織本ビル 〒170-0013

TEL03-3981-8651 (代表) 03-3981-0767 (営業部)

振替 00140-7-116563

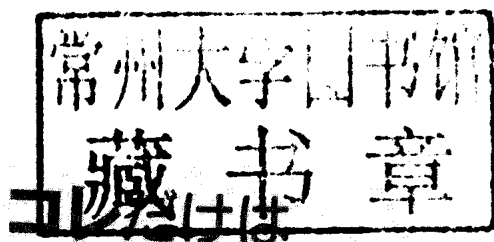
<http://www.subarusya.jp/>

印刷——中央精版印刷株式会社

落丁・乱丁本はお取り替えいたします

©Atsushi Nakao 2011 Printed in Japan

ISBN978-4-88399-974-3 C2034



知らなきゃヤバイよ!

会計

公認会計士・税理士
中尾篤史

公認会計士・税理士
監修 本郷孔洋



はじめに

「会計は地味でつまらない学問である」

という感覚は多く方がいっている正直な気持ちではないでしょうか？

私のまわりで会計に関わっていない人からもそんな声はよく耳にします。

でも、同時に会計は仕事の上で必要なので、学ばなければならないという声も聞きます。つまらないけれど、知っておかなければならない。そんな気持ちで学ばなければならないということを考えたら、なんて苦痛なことなのでしょう。

では、「会計」は、なんでつまらないと思われるのでしょうか？

それはきつと、「簿記」という特殊な暗号のようなものを学ばなければ会計をマスターすることができないと思われるいたり、机にじっと座って帳簿をつけるという暗いイメージがあるからかもしれません。

その一方で、学ぶ必要に迫られているという方も多いようですが、会計をマスターすれ

ば、決算書を読むことができたり、その結果、会社の儲けの構造や儲からない理由がわかったりと、メリットも多いと思います。

また最近、会社によつては、決算書も読めないようでは、昇格することもままならないといった会社もあるようですので、いわば「生きていくために避けられない道具」になりつつあるのです。

役に立つのであれば、やっぱり学んだほうが人生にとってプラスですよね。あとは、つまらないという感覚をなくせばいいのです。

そこで、本書においては、生活の中にちりばめられているさまざまな出来事を会計的な視点に置き換えて考えることで、会計を身近に感じて、親しみがもてるように工夫しております。

普通に学んだらストンと理解できないようなことでも、自分が経験したことのあるシンブルな事象に置き換えて物事を考えることができれば、「そういうことなのか」と納得でき、理解は深まると思います。

さらに、章立てにおいては、ひとつひとつの取引から決算書をボトムアップで見えていく

という手法ではなく、まずはゴールの決算書から全体をつかんでいくことで、「木を見て森を見ず」ということにならないよう心がけております。

その結果、直感的に決算書が読めるようになっていただけるはずです。

ぜひ日常生活の中にちりばめられた会計を感じ取って、それをビジネスの中で活用していただければと思います。

本書をきっかけに読者の皆様が会計に興味を持っていたとき、ビジネスの中で役立てていただければ著者としては望外の喜びです。

中尾篤史

コレだけは知らなきゃバイよ！会計◎目次

はじめに……2

第1章

意外と身近な会計

——会計を知る手がかりはあちこちにある

- 01 お金が動けば会計が動く！——日々コレ会計なり……12
- 02 お金が動かなくても会計は動いている！……18
- 03 会計にも限界がある——「やる気」や「未来」は計れない……24
- 04 社訓、ルールは知っておこう——会計の基本原則とは？……30
- 05 これがわかれば会計を制す！——期間帰属計算と発生主義……34

第2章

ゴールから考える会計

——それは誰に見せるためのものか

01	経理部の人は何を作っているのか？ —— 決算書という成果物……………44
02	財産と借金のバランスで考える —— 貸借対照表……………50
03	お父さんの収入でまかなえているか？ —— 損益計算書……………54
04	手もとのお金・現ナマをリアルに反映 —— キャッシュフロー計算書……………58
05	大家族の集計で考えてみよう！ —— 連結財務諸表……………64
06	付き合う相手が違えば対応も変わる —— 規模で異なる会計基準……………70
07	株主さんには最低限報告しておこう！ —— 事業報告……………76
08	会社のスポンサーをもっと増やそう！ —— 有価証券報告書……………80

第3章

「貸借対照表」がわかる！

——大事な公式 資産＝負債＋純資産

01	元手がないと始まらない！——貸借対照表の構造……………	86
02	七変化ならぬ八変化——資産・負債・純資産の関係……………	94
03	現金化しやすいものが優先！——流動・固定区分……………	98
04	ツケがきくのは当たり前！——現金預金、受取手形、売掛金……………	102
05	株の運用方針しだいで区分が変わる——有価証券……………	108
06	お店の在庫は会社の財産——棚卸資産……………	114
07	年間購読の本は財産扱い——経過勘定……………	120
08	安物は財産にならないけど……—減価償却資産……………	126
09	ツケで買ったなら払うまでは債務——買掛金……………	132

10	借りたお金は返さない！——借入金・社債……	136
11	将来のために備えを！——引当金……	142
12	残り物に福がありますように！——純資産……	148
13	傾向と対策——経営分析B/S編……	154

第4章

「損益計算書」がわかる！

——儲け具合を求める公式 利益＝収益－費用

01	儲けにもいろいろある——5つの利益……	164
02	B/SとP/Lのドッキングを意識しよう——損益の増減影響……	170
03	一番大切なのは一家の大黒柱の稼ぎ——営業損益の部……	174

04	余れば運用、足りなければ借入——営業外損益……	180
05	めったにない取引たち——特別損益……	184
06	税金は別記表示でアピール——法人税等……	188
07	傾向と対策——経営分析P／L編……	194

第5章

「キャッシュフロー計算書」がわかる！

——やっぱり注目される現金の動き

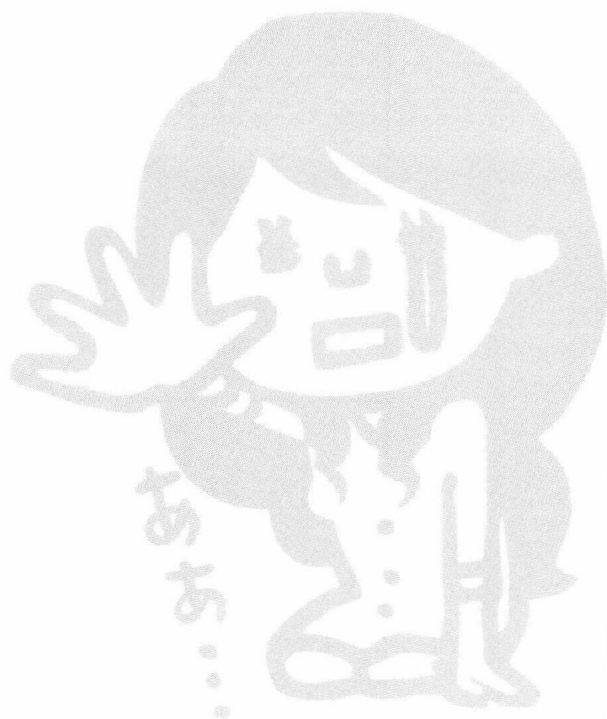
01	やっぱりお金が大事なのだ！——キャッシュフロー計算書……	204
02	勘定あって銭足らず——利益とキャッシュフローの違い……	210
03	本業の資金繰りは大丈夫？——営業活動によるキャッシュフロー……	218

04	将来の種まきは別に表示——投資活動によるキャッシュフロー……	224
05	お金の元手の動きも別に記載——財務活動によるキャッシュフロー……	228
06	傾向と対策——経営分析 C / F 編……	232

第 1 章

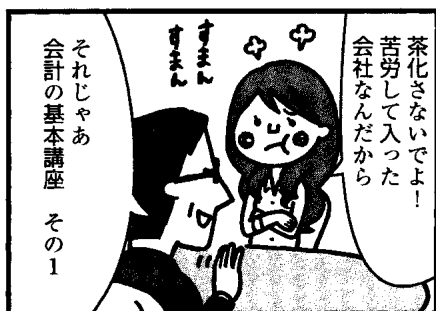
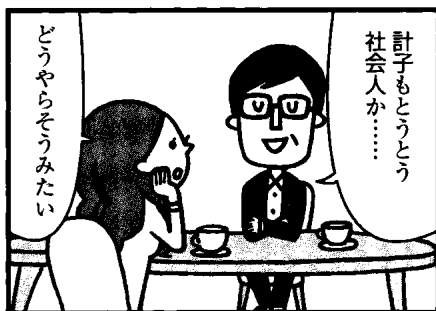
意外と身近な会計

——会計を知る手がかりはあちこちにある



お金が動けば会計が動く！

——日々コレ会計なり



お金が動くってどんなふう？

レストランに行っておいしい食事をして食べ終わったら、お勘定を支払いますし、車を買ったら自動車販売会社にお金を支払います。

このように、私たちの生活には、お金を支払う場面がたくさんあります。

そのときにお金を支払う相手先のことを考えてみてください。

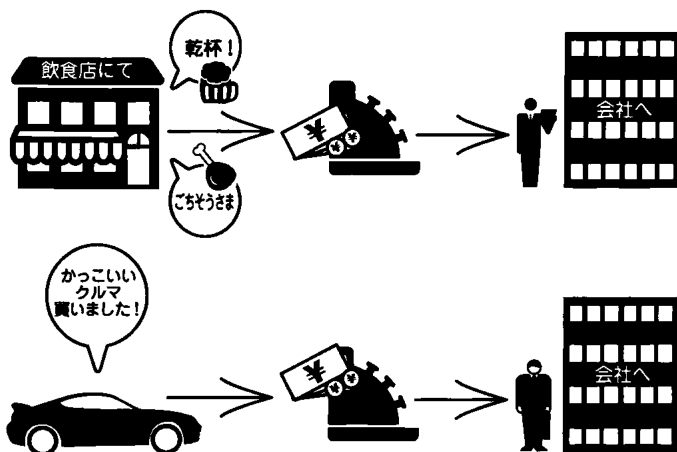
相手が商売をしている会社であるということもたくさんあるのではないのでしょうか？

例えばレストランでお勘定を支払う相手先のことを考えてみると、レジの人はアルバイトの店員さんかもしれませんが、レジの中に入ったお金はレストランを運営している会社に入っているのです。

最近では、飲食店でもチェーン店化が進んでいて、居酒屋、ラーメン屋、ファストフードのお店などが、上場している巨大な会社によって運営されているというケースも当たり前になっています。

さて、レストランのレジに入ったお金は、そのレストランを運営する会社の経理部に集め

お金の支払先って実は会社なんです



られます。

そして、経理部では、お金が入ったという事実に基づいて、「会計帳簿」というお金の記録をするメモ帳に、その事実を記録します。ですから、会計について考える際は、まず「お金が動いていないかな？」と考えてください。

会社では、お金が動いたときには必ずメモが必要になります。

そのお金の動きを、会計帳簿にメモすることを「記帳する」と言います。

少し耳慣れない言葉だと思いますが、覚えてください。

お金を支払う相手が会社であることが多いことは、前述のとおりですが、逆にお金をも

らう場合を考えてもそれは一緒です。給料であれば会社からもらいますし、お金を借りる場合なら銀行からお金が入ってきます。

「会社においてお金が動く」と記帳がされる」と考えると、私たちは毎日会計が動いている社会に生きているのです。

お金がすべてって少し寂しい気もするけど

ここで、もうひとつ知っておいていただきたいことは、会計帳簿に記録される単位は「お金の単位」であるということです。

日本の会計帳簿であれば「円」でメモがされるのです。

おいしいお料理を食べて、お客さんがものすごく感動しても、払ったお金の額でしか記録されませんし、まずくて本当は支払いたくない気持ちで支払ったお金であっても、その代金でしか会計ではメモされないのです。

つまり、人それぞれの気持ちまでは会計では表現されないのです。